

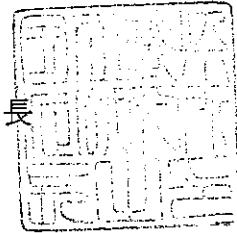
第17回科学技術部会	資料
平成15年10月2日	5-1

感染研発第502号

平成14年10月22日

厚生労働省大臣官房厚生科学課長 殿

国立感染症研究所長



評価結果の通知等について

標記について、「厚生科学研究に係る評価の実施方法に関する指針」に基づき、別添のとおり機関評価報告書及び研究課題評価報告書を提出いたしますので、よろしくお取り計らい願います。

# 国立感染症研究所機関評価報告書

平成14年9月

国立感染症研究所研究評価委員会

## 1. はじめに

国立感染症研究所における業務の目的は、感染症を制圧し、国民の保健医療の向上を図る予防医学の立場から、広く感染症に関する研究を先導的・独創的かつ総合的に行い、国の保健医療行政の科学的根拠を明らかにし、また、これを支援することにある。これら業務は、感染症に関わる基礎・応用研究、感染症のレファレンス業務、感染症のサーベイランス業務と感染症情報の提供、生物学的製剤、抗生物質等の品質管理に関する研究と国家検定・検査業務、国際協力関係業務、研修業務など多岐にわたっており、同研究所は今日までに人類社会に多大なる貢献を果たしてきた。今後も世界に貢献する感染症分野の中核機関として大きく成長されることを望みたい。

## 2. 機関評価の目的

「国立感染症研究所所内研究評価マニュアル」では、機関評価においては、国立感染症研究所の機関活動全般を評価の対象として行うこととされている。厳しい財政事情の下、限られた国の財政資金の重点的・効率的配分、及び研究者の創造性が十分に発揮されるよう、業務活動全般に関して、問題点や疑問点を抽出し、改善の方向性を示すことが機関評価の目的である。

## 3. 機関評価の対象

今回の機関活動全般の評価は、研究所が設立されて以来初めて実施する評価である。これまで、指定された部（4年に1回を目安として各部の評価が定期的に行われるよう評価対象となる部を指定）のみを対象とした評価であった。

なお、具体的な機関評価の評定事項は、「国立感染症研究所所内研究評価マニュアル」に基づき、以下の事項を対象とした。

- (1) 研究・試験・調査の状況と成果
- (2) 研究開発分野・課題の選定
- (3) 研究資金等の研究開発資源の配分
- (4) 組織・施設設備・情報基盤・研究及び知的財産権取得の支援体制

(5) 共同研究・民間資金の導入状況、国際協力等外部との交流

(6) 倫理規定の整備状況

#### 4. 評価の方法

(1) 当委員会は国立感染症研究所長からの委嘱による10名の委員（資料1）から構成される。

(2) 機関評価資料は、事前資料及び当日資料に区分され配布した。

(3) 本委員会は、平成14年2月12日（火）に、東京都新宿区の厚生労働省戸山研究庁舎において開催した。

(4) 機関評価の具体的な進め方は、検討の結果、研究所からの説明に対する質疑応答、全体討論及び委員のみの検討に区分して進めた。なお、各委員には、機関評価票を配布した。

(5) 当委員会は、各委員が提出した機関評価票に基づく結果を今回の報告書にまとめ国立感染症研究所長に提出するものである。

#### 5. 機関評価の結果

個別事項に関する評価は以下のとおりである。

##### (1) 研究・試験・調査の状況と成果

研究に関しては、感染症に係る基礎的研究と開発的研究のバランスが良く保たれており、興味に偏重した傾向は認められず、良好と考えられる。全体的に個々の研究は質的に高いレベルであり、一流紙に立派な論文を発表しており、評価できる。なお、地方衛生研究所からのルートだけでなく、大病院においても病原体検査機能が失われつつあり、取って代わるコマーシャルラボを含む病原体診断の精度管理にも積極的に所として関与されることを望みたい。

試験に関しては、行政的要求に充分応えているものと考えられる。なお、検定・検査業務は当研究所の大切な業務であり、多くの検定品の評価を行ってきたが、検定の方法が確立しているものは当研究所の監督のもとに外部に移管し、むしろ検定のあり方について研究したり開発することが求められているのではとの意見があった。ただし、もしもこの意見に対応する場合には、薬事法関連法規の改正が必要となる。

レファレンス業務に関しては、我が国のレファレンスセンターとしての役割とその実績に関しては、現行体制の中では非常に良好に行われている。特に「感染症診断マニュアル」の作成や「希少感染症診断技術研修会」の開催は評価できる。なお、すべての感染症に関

してレファレンスセンター機能を保持している状況ではないと思われるので、不足分につき整備し全域をカバーしうる方向で検討すべきとの意見、一方、集中と分散の観点から公的団体（他の専門機関）等に出せるものは出して、そ総合的充実について検討すべきとの意見もあった。

#### （２）研究開発分野・課題の選定

各部室とも責任分野をよく認識し、研究課題等を選定しており、適切と考えられる。なお、研究所の性格上止むを得ないと思われるが、微生物側からのアプローチが多いので、少しフィールド上での疫学及び予防に資する研究方法や課題の選定を試みても良いのではないかとの意見があった。

#### （３）研究資金等の研究開発資源の配分

人員と予算の配分は、適切と考える。なお、種々の事業運営に係わる部分についても、本来厚生行政に必須の事業がしばしば競争的研究費である厚生科学研究費補助金で出されていることがあり、事業の継続性を担保することが困難となる要因となる心配がある。行政上継続性を必要とする事業については、その事業費についての考え方を根本的に切り替える必要があろうとの意見があった。

#### （４）組織・施設設備・情報基盤・研究及び知的財産権取得の支援体制

組織に関しては、再編中であり、機能的なものとなって行くものと考えられるが、人員的に充分とは考え難い。もう少し量的・質的充実を図って頂きたい。

施設設備に関しては、最高度安全実験施設（バイオセーフティレベル４＝BSL４）が現在使用できない状況にあり、研究及び感染症対策上不都合を生じる心配がある。特に現下のバイオテロ対策上には必須の施設で、どのG7先進国にも複数以上施設が稼働されていることに鑑み、時代に対応した施設の充実、稼働が検討されるべきであろう。また、ハンセン病研究センターの研究設備を現代科学の水準になるよう充実させる必要がある。

情報基盤に関しては、ソフト面での整備は進んでいるものの、ハード面はやや貧弱でサーバーの容量も小さく改善を要するものと思われる。

研究及び知的財産権取得の支援体制に関しては、以前よりは整ってきているが、知的財産権取得に関してはもう少し積極的であっても良いものと思われる。

#### （５）共同研究・民間資金の導入状況、国際協力等外部との交流

共同研究に関しては、国内、国外の多くの機関と活発かつ良好に行われている。

民間資金の導入状況に関しては、大半が（財）ヒューマンサイエンス振興財団を介して

適正に行われている。

国際協力に関しては、国際協力室が活動し、WHO、JICA、二国間協力等を通じて活発に進められている。

(6) 倫理規定の整備状況

倫理審査委員会規定として整備され、倫理に充分配慮されており、特に問題を認めない。

以上

平成14年9月27日

国立感染症研究所長 殿

国立感染症研究所研究評価委員会

委員長 北川 定 謙



## 国立感染症研究所研究評価委員会 委員名簿

平成14年2月12日 (現在)

氏 名	所 属 ・ 職 名 ・ (専門分野) 郵便番号 ・ 住 所 電話番号
◎委員長 北川定謙	埼玉県立大学・学長 (公衆衛生) 〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820 Tel0489-73-4100
寺尾允男	(財)日本公定書協会・会長 (化学・薬学) 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15 薬学会館8階 Tel03-3400-5634
川名 尚	帝京大学 医学部附属溝の口病院・教授 (臨床ウイルス学) 〒213-8507 神奈川県川崎市高津区溝の口3-8-3 Tel044-844-3333
竹内 勤	慶應義塾大学 医学部・教授 (寄生虫学) 〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 Tel03-3353-1211
寺田雅昭	国立がんセンター・総長 (遺伝子治療・臨床) 〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1 Tel03-3542-2511
山口恵三	東邦大学 医学部・教授 (微生物学) 〒143-0015 東京都大田区大森西5-21-16 Tel03-3762-4151
吉田光昭	萬有製薬㈱ つくば研究所・所長 (ウイルス学) 〒300-2611 茨城県つくば市大久保3 Tel0298-77-2000
《役職指定》 加藤一夫	地方衛生研究所全国協議会・会長 (福島県衛生公害研究所・所長) 〒960-8560 福島県福島市方木田字水戸内16-6 Tel024-546-7104
《官職指定》 中垣俊郎	厚生労働省大臣官房厚生科学課・研究企画官 〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2 Tel03-5253-1111 内線3803
《官職指定》 土居 眞	国立国際医療センター・国際医療協力局長 〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1 Tel03-3202-7181

# 国立感染症研究所研究課題評価報告書

平成14年9月

## 国立感染症研究所研究評価委員会

### 1. 研究課題評価の対象

今回の研究課題評価は、機関ごとに特別な予算措置がなされた研究課題を対象に、14課題の事前評価及び11課題の中間評価を実施した。

なお、具体的な研究課題評価の評定事項は、「国立感染症研究所所内研究評価マニュアル」に基づき、以下の事項を対象とした。

(1) 事前評価にあつては、

- ①専門的、学術的観点からの重要性、発展性
- ②研究の独創性、新規性、課題の実現性
- ③行政的観点からの関連性、重要性、緊急性

(2) 中間評価にあつては、

- ①専門的、学術的観点からの達成度（成果）、妥当性、継続能力
- ②行政的観点からの貢献度

### 2. 評価の方法

(1) 当委員会は国立感染症研究所長からの委嘱による10名の委員（資料1）から構成される。

(2) 研究課題評価資料は、事前評価課題にあつては研究計画書、中間評価課題にあつては研究中間報告書を配布した。

(3) 本委員会は、平成14年2月12日（火）に、東京都新宿区の厚生労働省戸山研究庁舎において開催したが、研究所の自己評価が必要との意見があり、自己評価を参考に評価することとなった。

(4) 研究課題評価の具体的な進め方は、検討の結果、研究所から各委員に資料を送付し、各委員から研究課題評価票を提出してもらった。

(5) 当委員会は、各委員が提出した研究課題評価票に基づく結果を今回の報告書にまとめ国立感染症研究所長に提出するものである。

### 3. 研究課題評価の結果

個別の研究課題に関する評価は以下のとおりである。

なお、各研究課題ごとに総合評点（5＝特に優れている、4＝優れている、3＝良好、2＝やや劣っている、1＝劣っている）を付けた。

(1) 事前評価

①基盤的研究課題

ア 病原体等を取り扱う上での安全管理の研究

〔特記事項〕我が国における病原体実験及び検査での安全性確保という重要な研究で、厚生科学分野における重要性、行政課題との関連性及び重要性はいずれも極めて高く、高い緊急性を持つ。また、研究目標の実現性も非常に高いものとする。研究の独創性・新規性にやや欠け、研究の発展性に関しても特に優れているとは言い難いとの意見もあるが施設の重要な管理大系の構築には欠かせないと思われる。

〔総合評点〕 4. 1

イ 実験動物－小動物及びサル類－の微生物モニタリング

〔特記事項〕実験動物の品質管理という感染症研究の根幹に係わる重要な研究で、厚生科学分野における重要性、行政課題との関連性及び重要性はいずれも極めて高く、研究目標の実現性も非常に高いものとする。研究の独創性・新規性にやや欠けるが、実験動物の水準を高く保つための必須の研究と評価される。

〔総合評点〕 4. 0

ウ 細菌製剤及び抗毒素製剤の品質管理

〔特記事項〕細菌製剤及び抗毒素製剤に関する品質管理は健康危機管理上必須な研究で、厚生科学分野における重要性、行政課題との関連性、重要性はいずれも極めて高く、研究目標の実現性も非常に高いものとする。世界の流れの中で、新規性はないが、我が国で唯一この分野の品質管理を国の基準に基づき行う機関として避けることのできない重要な研究である。

〔総合評点〕 4. 1

エ ワクチン及び生物学的製剤の品質管理について

〔特記事項〕感染症対策上極めて重要な研究で、厚生科学分野における重要性、行政課題との関連性、重要性は極めて高く、研究目標の実現性も非



常に高いものとする。しかし、研究の独創性・新規性にやや欠け、研究の発展性や緊急性に関しても特に優れているとは言い難いとの一部の指摘もあるが生物製剤特にワクチンの品質管理は、常時良質なワクチンを国民に提供する上で避けられない研究テーマであろう。

〔総合評点〕 4. 2

オ 病原体（ウイルス・細菌及び真菌）の患者、食品、環境等由来検体からの検出・検査法の確立とその精度管理についての研究

〔特記事項〕 患者、食品、環境等からの特異性と精度の高い病原体の検出法の開発は重要な研究で、厚生科学分野における重要性、発展性、行政課題との関連性、行政的重要性のいずれもが非常に高く、行政的緊急性が大きく、研究目標の実現性も確実なものとする。

〔総合評点〕 4. 5

カ 感染症患者の生検・剖検の病理組織学的検索技術開発と診断への利用

〔特記事項〕 感染症診断のための極めて重要な研究で、厚生科学分野における重要性、発展性、研究の独創性・新規性、行政課題の重要性と関連性のいずれも高いものとする。また、研究目標の実現性も確実なものと考えられ、行政的緊急性も認められる。

〔総合評点〕 4. 0

キ 感染症診断に関わる検査技術法の開発と評価

〔特記事項〕 感染症診断に用いられる体外診断薬の開発・改良・評価に関する極めて重要かつ緊急性のある研究で、厚生科学分野における重要性、発展性、行政課題との関連性、行政的重要性のいずれもが非常に高く、研究目標の実現性も確実なものとする。

〔総合評点〕 4. 2

ク 寄生虫・原虫類による日和見感染症に関する基礎的・基盤的研究

〔特記事項〕 高齢化社会、居住環境の変化等従来は軽視されてきた感染症が厚生行政上重要な意味をもつ局面の増加が認められ、本研究はそのための重要なもので、厚生科学分野における重要性、発展性、研究の独創性・新規性、行政課題との関連性、重要性及び行政的緊急性のいずれもが高く、研究目標の実現性もかなり確実なものとする。

〔総合評点〕 4. 1

ケ ハンセン病についての研究

〔特記事項〕 ハンセン病の機構解明とそれに基づく国際貢献を行う重要な研究で、厚生科学分野における重要性、発展性、研究の独創性・新規性、行政課題との関連性、重要性及び緊急性は高く、研究目標の実現性も確実なものとする。

〔総合評点〕 4. 2

コ ウイルス感染によって誘導される防御免疫の基盤と防御免疫維持機構の解明

〔特記事項〕 ウイルス感染において宿主の側での検討は最も大切であるにも拘わらず、従来十分な研究が行われてきたとは言い難い。宿主の側から感染症の自然史を明らかにすることがワクチン開発の基盤である。特に細胞性免疫、局所免疫の簡便な測定法の開発は急務である。本研究は、安全で効果の高いワクチン開発のための極めて重要な研究であり、厚生科学分野における重要性、発展性、行政課題との関連性、重要性は極めて高く、研究目標の実現性も確実なものとする。また、研究の独創性・新規性及び行政的緊急性も認められる。

〔総合評点〕 4. 1

サ 疾病媒介動物、害虫類の防除、殺虫剤の抵抗性と効力に関する研究

〔特記事項〕 再興感染症として世界的にも問題になっている昆虫媒介性感染症に関する重要な研究で、厚生科学分野における重要性、発展性、研究の独創性・新規性、行政課題との関連性、重要性及び緊急性は高く、研究目標の実現性もほぼ確実なものとする。

〔総合評点〕 4. 2

②特別研究課題

ア 非ウイルス性感染病原体による疾病発症の原因と予防に関する研究

〔特記事項〕 感染症による疾病は自己免疫疾患、がん、胃潰瘍などますます広がってきているが、これらの疾病に対する病原体の果たす役割は不明な点があまりに多い。この点を解明することを目的とした本研究は重要で、厚生科学分野における重要性、発展性、研究の独創性・新規性、行政

課題との関連性、行政的重要性・緊急性のいずれもが高く、研究目標の実現性も確実なものとする。

〔総合評点〕 4. 0

イ 感染症研究用リソースとしてのカニクイザルの基盤高度化に関する研究

〔特記事項〕 感染症研究において必要不可欠な清浄な実験用サル生産と供給を目的とした本研究は、中長期的に考え大変重要なものであり、厚生科学分野における重要性は高く、計画目標の実現性、行政課題との関連性、行政的重要性のいずれも高いものとする。

〔総合評点〕 4. 0

③研究事業課題

ア 不活化ポリオワクチン等品質安全確保研究

〔特記事項〕 経口生ポリオワクチンは歴史的には重要な役割を果たしてきたが、VAPPのような問題も出てきた。そこで不活性化ワクチンへの移行が求められているものの、その効果や安全性について十分な検討がなされていないので、本研究は重要な研究であり、行政的重要性・緊急性は極めて高い。また、厚生科学分野における重要性、発展性、研究の独創性・新規性に優れており、研究目標の実現性も確実なものとする。

〔総合評点〕 4. 3

(2) 中間評価

①特別研究課題

ア 節足動物による感染性病原体伝播に関する分子機構の解明とベクター制御のための基盤研究

〔特記事項〕 節足動物からの病原体の感染の防御、制圧を考える上で必要な基礎研究で、地味な研究ではあるがグローバルにみると実に重要な研究テーマである。ここまでの研究成果は非常に良好であり、今後の計画も妥当であると思われる。また、研究継続能力に問題はなく、厚生行政に対する貢献度も高いと考える。また、マラリア防圧対策に寄与する研究としても、バイオテロ対策上においても有用性があると思われ、そのような方向への発展も期待できる。

〔総合評点〕 3. 8

## ②研究事業課題

### ア エイズ研究センター経費（H I V感染の分子遺伝学的研究）

〔特記事項〕 エイズワクチン開発は、世界的にも最重要課題であり、本研究は、将来性のある結果を出してきている。研究成果としての論文発表も多く、今後の計画も妥当であると思われる。研究継続能力も十分で、厚生行政に対する貢献度も高いと考える。また、国際協力としても優れていると思われる。なお、これまでの実績と研究の方向性とが必ずしも一致していない点が多少気になることである。

〔総合評点〕 4. 1

### イ 希少感染症診断技術向上費

〔特記事項〕 国立感染症研究所として極めて重視すべき分野であり、事業の成果は同研究所の役割の一つの柱であるレファレンスセンターを充分果たしているもので、毎年時宜を得た研修会及び試薬等の配布を行っており、厚生行政への貢献は非常に高いものとする。なお、研究費については不足気味であると思われるので、必要な額の配分が望まれるとともに、重要な研究と考えられるので、さらに拡充させる必要を認めるものである。

〔総合評点〕 4. 7

### ウ ポリオ根絶計画推進費（調査研究費）

〔特記事項〕 WHOのポリオ根絶計画の一端を担う事業であり、研究意義は極めて高く、少人数での研究にも拘わらず重要な成果を上げていると思われる。特に国際貢献度は高いものとする。

〔総合評点〕 4. 7

### エ 麻疹根絶計画推進費（調査研究費）

〔特記事項〕 国際的にも重要な研究であり、ウイルス分離のための高感受性細胞株の開発、麻疹 I g M抗体の簡易迅速診断法の開発など研究成果は極めて優れている。これらの成果はアジアを中心とした海外諸国への国際貢献度が高いだけでなく、我が国の公衆衛生行政上においても非常に重要なものであると考える。

〔総合評点〕 4. 2

### オ 遺伝子治療用ウイルス遺伝子運搬体（ベクター）の開発研究事業費

〔特記事項〕新しい治療技術として遺伝子治療は大いに期待されているが、副作用も含めてその厳しい評価が必須であり、地味ではあるが重要な事業であり、少ない人数にも拘わらず安全性・新規開発などよく成果を上げている。

〔総合評点〕 4. 0

カ 輸入ウイルス感染症（エボラ出血熱等）の診断・研究体制の確立に関する事業費

〔特記事項〕バイオセーフティレベル4（BSL4）病原体の診断技術の開発は、現在緊急かつ重要な研究で、限定された条件下での努力は評価したい。また、我が国における感染症対策上極めて重要な成果が上がりつつあり、今後の更なる発展が期待される。なお、ウイルス学の進歩の中で病原体の取扱い上の安全性も以前より明確になってきており、村山分室の施設は我が国唯一の病原体用のレベル4対応となっており、今日の世界情勢の中でこれが稼働しないと患者発生時に対応できないことになるわけで、積極的に活用する方向を検討すべきである。

〔総合評点〕 4. 2

キ プリオン病の発症機序の解明とプリオン蛋白の高感度検出系の開発研究事業費

〔特記事項〕プリオン病は感染病態や診断法に不明な点が多く、社会的な関心も強いことから生前診断法の確立が望まれている。困難なテーマではあるが良く対応しているものと思われる。また、CJDの早期診断系の開発、抗プリオン抗体の開発など極めて優れた成果を上げつつあり、今後の更なる発展が期待される。

〔総合評点〕 4. 1

ク ハンセン病研究センター経費（国際研究協力事業）

〔特記事項〕世界的にみてハンセン病の研究は重要であり、らい菌感染者の高感度血清診断法の開発、大規模疫学調査からのデータ解析などの成果は極めて優れており、国際研究協力としても高く評価できるものとする。

〔総合評点〕 3. 8

ケ 食品由来感染症の監視体制強化に関する事業費（調査研究費）

〔特記事項〕 全国で分離された食中毒菌のレファレンスラボとしての役割は大きく、研究としては地味であるが社会に対しては大きな貢献をしている研究である。その成果もこれまでの行政施策に大きく貢献してきたものとする。科学的な妥当性が評価されるにとどまらず、行政的にも極めて妥当な事業であると思われる。なお、本研究は今後も引き続き起こる diffuse outbreak に対し、極めて有用であることが証明されていると考えられるので、更に拡充して継続させることが望まれる。

〔総合評点〕 4. 5

コ 人畜共通感染症の診断技術開発及び監視体制の強化に関する事業費（調査研究費）

〔特記事項〕 例数は少ないものの人畜共通感染症の予防は社会にとって重要な課題であり、着実に成果を出している。

〔総合評点〕 3. 8

以 上

平成14年9月27日

国立感染症研究所長 殿

国立感染症研究所研究評価委員会

委員長 北川 定 謙



国立感染症研究所研究評価委員会 委員名簿  
平成14年2月12日 (現在)

氏 名	所 属 ・ 職 名 ・ (専門分野) 郵便番号 ・ 住 所 電話番号
◎委員長 北川定謙	埼玉県立大学・学長 (公衆衛生) 〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820 Tel0489-73-4100
寺尾允男	(財)日本公定書協会・会長 (化学・薬学) 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15薬学会館8階 Tel03-3400-5634
川名 尚	帝京大学 医学部附属溝の口病院・教授 (臨床ウイルス学) 〒213-8507 神奈川県川崎市高津区溝の口3-8-3 Tel044-844-3333
竹内 勤	慶應義塾大学 医学部・教授 (寄生虫学) 〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 Tel03-3353-1211
寺田雅昭	国立がんセンター・総長 (遺伝子治療・臨床) 〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1 Tel03-3542-2511
山口恵三	東邦大学 医学部・教授 (微生物学) 〒143-0015 東京都大田区大森西5-21-16 Tel03-3762-4151
吉田光昭	萬有製薬(株) つくば研究所・所長 (ウイルス学) 〒300-2611 茨城県つくば市大久保3 Tel0298-77-2000
《役職指定》 加藤一夫	地方衛生研究所全国協議会・会長 (福島県衛生公害研究所・所長) 〒960-8560 福島県福島市方木田字水戸内16-6 Tel024-546-7104
《信職指定》 中垣俊郎	厚生労働省大臣官房厚生科学課・研究企画官 〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2 Tel03-5253-1111 内線3803
《信職指定》 土居 眞	国立国際医療センター・国際医療協力局長 〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1 Tel03-3202-7181

# 国立感染症研究所研究評価委員会

{ 日 時：平成14年2月12日(火) 13:00～18:30 }  
 { 場 所：厚生労働省戸山研究庁舎共用第二会議室 }

## I 機関評価関係資料

1. 概要 (13:10～13:20 説明者：所長)
  - 1-1 国立感染症研究所の種々な業務 (P 1)
  - 1-2 感染症の予防の総合的な推進を図るための基本的な指針
  - 1-3 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行に伴う感染症発生動向調査事業の実施について ) 資料 1
  - 1-4 国立感染症研究所における再任用制度の実施方法について (P 2)
  - 1-5 国立感染症研究所年間行事予定表 (P 4)
  - 1-6 国立感染症研究所における情報公開の状況 (P 5)
  - 1-7 国立感染症研究所概要 資料 2
  - 1-8 国立感染症研究所年報 資料 3
  - 1-9 研究実施状況等報告書 資料 4
  - 1-10 研究評価委員会の指摘事項に対する改善状況 資料 5
  
2. 組織、予算、施設設備、情報基盤、他 (13:20～13:50 説明者：副所長)
  - 2-1 組織
    - 1) 国立感染症研究所幹部名簿 (P 9)
    - 2) 組織再編案 (新旧組織図) (P 10)
    - 3) 定員の推移 (P 11)
    - 4) 人員の構成 (P 12)
    - 5) 審議会等の委嘱 (P 14)
    - 6) 外部研究者受入状況 (P 15)
  - 2-2 予算
    - 1) 国立感染症研究所予算額の過去5カ年の経費別推移表 (P 16)
  - 2-3 施設設備
    - 1) 施設設備の状況 (P 18)
  - 2-4 情報基盤
    - 1) 研究情報ネットワークシステム (NIH-NET) の運営状況 (P 23)
  - 2-5 研究の支援体制
    - 1) 各部非常勤職員数について (P 27)
    - 2) 戸山研究庁舎業務委託について (P 28)
    - 3) 業務委託仕様書 資料 6
  - 2-6 感染研の安全確保に関する対策
    - 1) バイオセーフティ管理室の業務 (P 29)
    - 2) 病原体等安全管理規程 資料 7
    - 3) 放射能管理室の業務 (P 31)
    - 4) 放射線障害予防規定 資料 8
    - 5) 動物管理室の業務 (P 32)
    - 6) 動物管理区ガイドライン 資料 9
    - 7) 安全連絡協議会 資料 10
  - 2-7 所内委員会
    - 1) 所内各種委員会及び規程一覧 (P 33)
    - 2) 各種委員会委員等名簿 (P 35)
    - 3) 特許の出願及び登録数 (P 44)



- 2-8 検定等
  - 1) 国家検定等の実施状況 資料11
- 2-9 共同研究・民間資金の導入状況
  - 1) 共同研究相手方一覧 (P 45)
  - 2) 民間資金導入一覧 (P 46)
- 3. 国際協力、研修、倫理規定 (13:50~14:10 説明者：企画主幹)
  - 3-1 国際協力・研修業務 (P 47)
  - 3-2 ポリオ根絶計画ウイルス検査技術研修実施要領 資料12
  - 3-3 エイズのウイルス感染診断検査技術コース研修実施要領 資料13
  - 3-4 国内研修業務 (P 55)
  - 3-5 実地疫学専門家養成コースパンフレット 資料14
  - 3-6 感染症危機管理研修会資料 資料15
  - 3-7 希少感染症診断技術研修会資料 資料16
  - 3-8 炭疽菌の検査法に関する講習会資料 資料17
  - 3-9 倫理規定の整備状況
    - 1) 国立感染症研究所 ヒトを対象とする医学研究に係る倫理審査委員会規程 (P 57)
    - 2) 医学研究倫理審査委員会委員名簿 (P 63)
- 4. レファレンス業務 (14:10~14:30 説明者：細菌部長)
  - 4-1 感染症レファレンス活動 (P 64)
  - 4-2 各部で行っているレファレンス活動一覧 資料18
- 5. サーベイランス業務 (14:40~15:00 説明者：感染症情報センター長)
  - 5-1 サーベイランス業務と感染症情報の収集・解析・提供の現状及びホームページについて (P 67)
  - 5-2 感染症情報センターにおける情報基盤の状況 (P 75)
- 6. 筑波医学実験用霊長類センターの概況 (15:00~15:20 説明者：副所長)
  - 6-1 筑波医学実験用霊長類センター概況書 (P 80)
  - 6-2 筑波医学実験用霊長類センター／社団法人予防衛生協会パンフレット 資料19
  - 6-3 霊長類育成事業検討委員会中間報告 (案) 資料20
- 7. ハンセン病研究センターの概況 (15:20~15:30 説明者：ハンセン病研究センター長)
  - 7-1 ハンセン病研究センター概況書 (P 92)
  - 7-2 ハンセン病研究センターパンフレット 資料21
  - 7-3 ハンセン病研究センター年報 資料22

## II 課題評価関係資料

- 1. 研究課題 (15:30~17:20 説明者：副所長、ウイルス第一部長)
  - 1-1 研究中間報告書サマリー (P100)
  - 1-2 研究計画書 (事前評価) 資料23
  - 1-3 研究中間報告書 (中間評価) 資料24

## III その他関係資料

- 1. 国立感染症研究所研究評価委員会委員名簿 (P137)
- 2. 国立感染症研究所所内研究評価マニュアル 資料25

# 国立感染症研究所医学研究倫理審査申請書一覧

平成12年度～14年度

2002. 9. 25

年度	所 属	氏 名	研 究 課 題	申請日	審査日	結 果	備 考
12	口 腔 科 学 部	武内 博朗	モノクロナール抗体を用いたう蝕抑制生物製剤の開発研究	11.11.2	12.2.24	再提出	
		花田 信弘	"	12.3.3	12.5.24	承認	
	生 物 活 性 物 質 部	鈴木 和男	好中球活性化因子 LECT 2 の疾患への関与	11.12.21	12.2.24	再提出	
			"	12.4.21	12.5.22	再提出	
免 疫 部	横田 恭子	HIV-1 感染症の病態進行に関する宿主側因子の解析	13.2.?	13.2.13 13.8.22	再提出 承認		
ウ イ ル ス 第 2 部	鈴木 哲朗	ウイルス性慢性肝疾患の発症に関する宿主遺伝子の解析	13.2.13	13.2.13	再提出		
13	ウ イ ル ス 第 2 部	鈴木 哲朗	ウイルス性慢性肝疾患の発症に関する宿主遺伝子の解析	?	13.8.22	承認	
	ハンセン病研究センター	松岡 正典	ハンセン病発生動向調査システムの開発	13.6.18	13.8.22	承認	
		(松尾 英一)	ハンセン病に対する免疫療法及びワクチンの開発	13.6.18	13.8.22	承認	
		牧野 正彦	ハンセン病の実態把握及びその予防・診断・治療に関する研究	13.6.18	13.8.22	承認	
石井 則久		ハンセン病患者データベース化の確立に関する研究	13.6.28 13.9.3 14.1.10	13.8.22 13.11.7 14.2.26	再提出 " "		

年度	所 属	氏 名	研 究 課 題	申請日	審査日	結 果	備 考
13	口 腔 科 学 部	泉福 英信	宇宙環境における口腔微生物叢の変動	13. 6.	13. 8. 22	承 認	
	免 疫 部	横田 恭子	HIV 感染に関わる免疫応答の研究	13. 8. 17	13.11. 7	再提出	
			" "	? 14. 3. 29	14. 2. 26 14. 6. 19	" 承 認	
	エイズ研究センター	仲宗根 正	HIV 感染症総合データベースの構築と制限公開	13. 8. 13.12.	13.11. 7 14. 2. 26	再提出 "	
			" HIV ウイルス遺伝子生物学的解析とデータベース化及び関連ヒト遺伝子解析を見据えた試料保存	? 13. 8. 13.12.	? 13.11. 7 14. 2. 26	承 認 再提出 "	
	ウ イ ル ス 第 1 部	森川 茂	ザンビアにおける出血熱ウイルスの血清疫学調査	13. 9. 28 13.11. 30	13.11. 7 14. 2. 26	再提出 "	
			"	? 13. 9. 28	? 13.11. 7	承 認 再提出	
クリミア・コンゴ出血熱ウイルスに対する抗体検出システムの評価			13.11. 30	14. 2. 26	"		
クリミア・コンゴ出血熱の実験室診断法の評価			? 13.10. 23	14. 6. 19	承 認	課題変更	
免 疫 部	横田 恭子	本邦におけるリンパ球性脈絡髄膜炎 (lymphocytic choriomeningitis virus) の血清疫学調査	? 13.10. 23	14. 2. 26 14. 6. 19	再提出 承 認		
		HIV Nef の発現による免疫細胞機能変化と病態形成に関する解析	13.10. 10	13.11. 7	再提出		
	"	HIV Nef の発現による免疫細胞機能への影響に関する研究	? 14. 3. 29	14. 2. 26 14. 6. 19	再提出 承 認	課題変更	

年度	所 属	氏 名	研 究 課 題	申請日	審査日	結 果	備 考
1 3	ウイルス第1部	小川 基彦	リケッチア及びクラミジア症の診断法の開発、疫学及び病態解明に関する研究	13.10.11 ?	14.2.26 14.6.19	再提出 承認	
	食品衛生微生物部	五十君 静信	食品由来のリステリア菌の健康被害に関する研究	13.10.30 ?	14.2.26 14.6.19	再提出 承認	
	エイズ研究センター	杉浦 互	抗 HIV-1 薬剤の生体内代謝及び病態等に関与するヒト遺伝子の解析	13. ?	14.2.26 14.6.19	再提出 承認	
	感 染 病 理 部	長谷川秀樹	HIV 感染動物モデルの作製	14.1.11 ?	14.2.26 14.6.19	再提出 承認	
1 4	食品衛生微生物部	春日 文子	保育所における感染症実態のコホート研究	14.4.25	14.9.24	再提出	
	ハンセン病研究センター	石井 則久	ハンセン病患者データベース化の確立に関する研究	14.	14.9.24	未審査	次回の委員会へ持越し
		"	グラニューライシンの解析	14.7.24	14.9.24	保 留	
	細 菌 第 一 部	渡邊 治雄	本邦における劇症型溶血性レンサ球菌感染症のサーベイランスと発症機序の解明	14.6.26	14.9.24	承 認	
		"	レプトスピラ抗体検査キットの精度管理	14.7.30	14.9.24	承 認	
"		レプトスピラの新規抗原タンパク質の探索	14.7.30	14.9.24	承 認		
	泉福 英信	要介護高齢者の口腔微生物叢の改善のための歯科保健医データベース構築研究	14.	14.9.24	再提出		